

野菜の展望

今年も全国的に未曾有の酷暑となり、特に北海道では35℃超えの猛暑日が続き、記録づくめの年となりました。猛暑の影響から生育中のものはヤケ・枯れ・倒状が発生し、播種したものは発芽しない、虫害も多発、そんな厳しい生育環境が続きました。9月以降は、昨年と比較すると残暑が厳しいものの、適度な降雨もあり、キャベツ・白菜などの葉物類は順調な出荷が続いています。果菜類など不足する品目もありますが、12月に入ると、北海道産の馬鈴薯・玉葱以外は各品目回復傾向の見通しです。

葉茎菜類の白菜は、茨城産他の入荷となり、石川産は上旬で終了です。キャベツは愛知産中心の入荷となり、平年並みの出回りを予想します。葱は石川産結束品主体に下旬より大分産の入荷で、バラ物では埼玉・群馬産等の入荷となります。レタスは兵庫産中心に静岡・長崎産の入荷となります。ほうれん草は静岡産主体に、福岡・群馬産の入荷となります。

根菜類の蓮根は石川産が前日掘りをスタートしたことで増量が見込まれ、他に茨城産も加わり、日々安定した入荷量が期待できます。大根は千葉産中心の入荷となります。各地順調な入荷が見込まれます。人参は上中旬までは岐阜・石川・富山産の入荷で、中旬以降は愛知産中心の入荷で順調な入荷が見込まれます。

果菜類の胡瓜は高知・愛知産主体に平年より少ない入荷となる見込みで、石川産については終盤を迎えます。茄子は高知・愛知産、長茄子は熊本・福岡産となる中、不安定な入荷となる見込みです。トマトは石川産が終盤となり、愛知産を中心に、中下旬より増量が見込まれます。ピーマンは高知・鹿児島産で上旬はやや増加する見込みです。冬至に需要が高まる南瓜は石川・鹿児島産中心にメキシコ産の入荷ですが、輸入品は為替の影響が大きく、不安定な入荷となる見込みです。柚子は高知・徳島産中心ですが、主産地の高知県は表年、徳島県の主力となる阿南地区は平年並みです。肥大状況は秋口の適度な降雨により中玉～大玉傾向となっています。高知産は5kgバラ玉、徳島産は250gパック中心の入荷です。高知産、徳島産ともに例年に比べ入荷量は増加する見込みです。きのこ類では石川産椎茸を中心にえのき・ナメコやぶなしめじ等、前年同様の入荷が見込まれます。石川産の原木椎茸「のと115」の共撰は中旬以降入荷、「のとてまり」については年明けの見通しです。石川産のせりの生産者は2軒になっており、熊本・大分・高知・宮城等の県外産で、年末需要に対応してまいります。

土物類の馬鈴薯は北海道・長崎産の入荷です。北海道産は生育期の酷暑により近年にない不作となっており、入荷量の極端な現象が予想されています。長崎産秋掘りは、定植期の降雨とその後の暑さから不作傾向と報告されています。玉葱は北海道産の入荷ですが、馬鈴薯同様玉太りが進まず、平年に比べ出荷がかなり少なく、現状の高値を上回る価格となる見込みです。ごぼうは青森産主力にM・2Mを中心に順調な入荷が見込まれますが、九州産の新ごぼうは成育期の天候不順から不作傾向と予想されております。長芋は北海道・青森と両産地共に新物出そろいます。両産地共に豊作基調で太物中心の順調な入荷が見込まれます。

12月はお歳暮・クリスマスなど最需要期を迎え、集荷には万全を期して参りますので販売拡大にご協力をお願い申し上げます。

《取締役野菜担当営業副本部長 嶋田 亮》

果実の展望

あわただしい師走に入り、年末贈答の最需要期を迎える時期となりました。

みかんは表年で、入荷量は昨年より増量と予想されます。食味について糖度は例年並み、酸味切れのよいみかんとなっております。肥大状況については 2L・L サイズ中心の出荷です。このことから、今年は福岡産(マイルド)・長崎産(味ロマン)などの、高糖度商品の割合は多いです。尚、早生種から普通種への切り替わりについては、主力産地の長崎・福岡産ともに 10 日頃となる予定です。

りんごは長野・山形・青森からの出回りで、前年よりも出荷量は減少見込みです。

莓は愛知・九州地区より、章姫・紅ほっぺ・ゆめのか・あまおう・さがほのか等の各品種の入荷があり、今後の天候の影響にもよりますが不安定な入荷も予想されます。

柿は上中旬は岐阜主力の富有柿の入荷となり、下旬より福岡産(JA にじ)の冷蔵富有柿に切り替わっての入荷です。

干し柿は石川産中心の入荷で、JA 志賀のころ柿は平年の 8 割の入荷見込みです。富山産については前年並みの入荷となる予想です。

メロンについては静岡産が前年よりも出荷量は減少すると見られ、高知・九州地区については前年並みの入荷となる見込みです。

輸入果実のバナナはフィリピン産中心に南米産の入荷で、各産地ともに順調な入荷となります。オレンジはオーストラリア産バレンシアが 72 玉・88 玉中心の入荷で、1 月末のアメリカ産が入荷するまで販売します。グレープフルーツはチリ産ルビー種の入荷で、40 玉・45 玉・55 玉の販売となります。レモンはチリ産からカリフォルニア産へ移行し、はじめは 140 玉、165 玉の小玉サイズの販売となります。パインはゴールデン・スウィーティオともに順調な入荷が見込まれます。その他、オーストラリア産ハネジュウメロン、ペルー産シードレスブドウ、アメリカ産メローゴールド、メキシコ産アボカド、ブラジル産マンゴーに加えてオーストラリア産とタイ産の入荷も見込まれています。

本年も一年間の締めくくりの月となりましたが、何卒宜しく願い申し上げます。

《取締役果実担当営業副本部長 荒木 智》